

---

# **ネギま！ 殲滅眼と強欲をもつ槍兵**

米

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ネギま！ 殲滅眼と強欲をもつ槍兵

### 【Zコード】

N7142Y

### 【作者名】

米

### 【あらすじ】

一槍使い兼殲滅眼持ち兼鋼の鍊金術師の強欲の能力持ちが頑張ります。

作者は文才ありません。

## プロローグ

「んてばは。

僕の名前は……………です。あ、スミマセン僕は死んだので前世の名前は喋れないよつです。

ん？なにを言つてか分からないつて？今から説明しよう。

1・あれ、こじり？なんか真つ暗だな。

2・神（仮）登場。

「貴様は死んだ。が、それは儂のミスでな、極悪人に天罰を下すつもりがお主に下してしまったのだ。すまんの」

よく分からないうが俺は死んでそれはこいつのせいだと……よし

！殺そう！

と、言ひ訳でいま足元に神（仮）が転がつています。

神「ぐふつ。ま、まあそう言ひことだからお主を転生させることにした。そのさい3つ願いを叶えさせてやろつ。あつ！スミマセン、威張らないから蹴らないで！」

なに威張ってるんだこいつ。

「まあいい。願い事か……俺が転生する世界はどんなとこだ？」

神「魔法や氣があり。殺し合いがある所です！サー！」

「それじゃあまずは、漫画伝説の勇者の伝説に出てくる殲滅眼と鋼の鍊金術師の強欲の能力。あ、魔改造でその世界最強クラスの一撃でも防げるよつにして。殲滅眼も魔改造で氣も吸収出来るようにして。

あと二十年の間にここで修行したいから誰かだしてくれ

神「分かった。そうだな……

「ディルムッド・オティナなんてビーヴィー。ケルト神話に出てくる  
槍兵のなかでも屈指の実力者じゃ」

「まあまかせる。

それと最後にお願いなんだが、俺の家族と兄弟と親を出来るだけ幸  
福にしてくれないか?」

神「ふむ。せいぜい十が十一になるくらいだぞ?」

「構わない頼む。」

神「よからう。お主はこの扉をの向こうでいる『ディルムッド・  
オティナの所にいけ』

「分かった。」

さあ。来世では死なないよう頑張るか!

## 設定

人物	ライガット・オディナ
性別	男
身長	前世 185センチ 転生後 136センチ
能力	鋼の鍊金術師の強欲の能力（魔改造） 伝説の勇者の伝説の殲滅眼（魔改造）
能力値	身体 B - 耐久 C - 幸運 E 宝具 B - 俊敏 B ~ EX

### 【クラス別スキル】

対魔力 : A +

ここでは殲滅眼により極限まで効かないとします。

### 【固有スキル】

心眼（真） : C 修行・鍛錬によって培つた洞察力。窮地において自分の状況と敵の能力を冷静に把握し、その場で残された活路を導き出す“戦闘論理”。チャンスを手繩り寄せられる宝具  
『破魔の紅薔薇』  
〔ゲイ・シャルグ〕

ランク : B 種別 : 対人宝具 レンジ : 2 ~ 4 最大捕捉 : 1人  
魔力による防御を無効化する長槍。

魔力によって編まれた防具はこの槍の攻撃に対し効果を持たず、一切発揮されなくなる。

持っているのは限りなく本物に近い偽物で本物よりもろい。

契約や呪いは覆せない。

『必滅の黄薔薇』  
〔ガイ・ボウ〕

ランク : B 種別 : 対人宝具 レンジ : 2 ~ 4 最大捕捉 : 1人

回復不能の傷を負わせる呪いの槍。

この槍によるダメージはHPの上限そのものが削減されるため、いかなる治癒魔術、再生能力をもっていても『傷を負った状態』にまでしか回復出来ない。

転生しました！……あれ？

あれから二十年。

師匠に鍛えられたが強くなりました。（実はすでに本気の『ティルムッド・オディナ』といい勝負をするほど。つまり英雄なみ。）

ディ「貴様はもう十分強くなつた。それゆえ、わが名である『オディナ』を与えよう。」

「ありがとうござります、師匠。」

神「準備はいいな？おつと。忘れてた。鑑別じゃ。受けとれ。これは！」

「ゲイ・ボウとゲイ・ジャンヌじゃないか！どうして？」

神「それは限りなく本物に近い偽物じゃ。本物よりはもう一  
が能力はほぼ同じじや。それではがんばってこい！」

ディ「貴様の活躍、期待してるぞ！」

「はい！それでは！」　俺は扉を抜け、転生する。あれ  
？また子供になるなら槍とかどうするのかな？まあいつか。

で、結果転生したのは  
「は…ははははははははははははははははははは…やつた、  
やつたんだ！ありとあらゆる魔法を吸収し、身体強化ができる殲滅  
眼、ありとあらゆる物理攻撃を防ぐ最強の楯！そして旧世界の英雄  
ディルムッド・オディナの戦闘能力を持つた最強種であるあらたな  
生物を作り上げたぞ！！！」

「はい、分かります？人造人間として生まれました！　なんと  
いうご都合主義！設定すべてこの人がつくったことになりました！  
まあとにかくさつさとここからにげないとな。」

「そこまでだ！警備団だおとなしくしろー。」

「くそーしかしこいつがいれば！」

なんか考えて事してたらいろいろあり、解放されそうです。よしー向こうの人に保護してもらお。

ガシャン！しゅうわわわわううう

「くそー気よつける。なにがくるか分からんぞー。」「ははははははー！貴様らではこいつには勝てんよ。ははははははんぐつ！貴様な、何をしている敵は向こうだ！ま、またやめろ！た、たすけギヤ————！」

取りあえず俺を作り上げたやつは氣絶させた。「え？ ややこしいって？ そちらへんはほら、作者の文才がね？ ま、まあこれで向こうの人にも敵意がないことを分かつてくれなよね？」

「こちらの言葉は分かるか？」

「ク

「喋れるか？」

「少し……」

「何故あの人間を殺した？」

「何かある人は企んでいたから。それに殺していない。氣絶してるだけ。」

「そうか……ではついでここに皇帝陛下に『報告せねば』

「分かった。」

さてさて。どんな世界かな。

あ、一槍は俺だけが使える武器として俺を作り上げたやつがつくっていました。なにげすげえなあいつ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7142y/>

ネギま！ 殲滅眼と強欲をもつ槍兵

2011年11月21日14時03分発行